

平成28年度 佐久長聖中学校 学校自己評価

学校教育方針	中・長期的目標	今年度の重点目標
1. 礼節を重んじ、忍耐強く、誠実な人材の育成を図る。 2. 一人ひとりの個性を尊重し、授業・クラブ活動・館(寮)生活を通して、豊かな教養、感性、心身の健康を身につける。	1. 積極的、自主的な態度を養う。 2. 希望進路の実現をめざす。 3. 教職員の指導力を高める。 4. 校外から理解・支援される教育活動を展開する。	1. 生徒の様々な意欲を より高めることのできる 学校づくり ・学習・生活・課外活動・館などすべての分野で、指導方法を模索し、質を高める。 ・生徒との前向きな対話のある 生活指導・学級運営を行う。 2. 生徒の安全と安心の確保 3. 「6年一貫教育」の意義の再確認・再構築

評 価	A	十分
	B	概ね十分
	C	やや不十分
	D	不十分
	E	評価できない

評価①：各自の取り組みについての自己評価 評価②：本校全体や各部署についての 本校教職員としての評価

分野	評価項目	評価の観点	評価①	評価②	成果（具体的に何ができたか）	今後やるべきこと、実施に当たっての問題点
学 習	授業内容の充実	1 授業評価を適宜行い、その内容を踏まえて授業の方法を工夫・改善して、生徒の学ぶ意欲を喚起しているか。	B	B	・自分の授業をビデオ撮影し、その後反省点・改善点を考えた。 ・ノートチェックや生徒の声を大事にして学ぶ意欲を喚起することができた。	・授業評価を充分に行っていないので、今後意識して行っていきたい。 ・画像や動画の精選と学習プリントとの連携など。
	教科指導力の向上	2 研究授業のほかに教員相互の授業参観や相互批評をしているか。アクティブラーニングの手法を試みているか。	C	B	・なるべく生徒の発話の機会を多く持ったり、自ら考える時間を多く取ったりした。 ・アクティブラーニングはずっと前からやっている。	・定着において弱い部分があるので改善を重ねたい。 ・教科を越えた相互批評の場を増やしていく必要あり。
		3 各種の模試・検定などの客観的データを教科会や各自で分析し、生徒の学力に応じた授業を行っているか。	B	B	・学年の生徒の成績の分析を行い、授業で生徒の苦手な問題パターンをのものをドリル形式で行った。／・係の先生がよくやってくれていて助かる。	・粘り強く指導していきたい。 ・なかなか分析まで手が回らなかった。
指 導	学習習慣の確立と自主的な学びへの導き	4 (学級担任として) 生徒の学習状況・学習時間を把握し、面接によって個々に即した適切な助言をしているか。	B	B	・他教科の先生にも様子を聞きながら課題を考えることができた。 ・面談を各学期ごとに行っているのは効果的である。	・毎回同じ反省をしてくる生徒に対して取り組み方や意識が変わるような助言をしていく。／・時間をゆっくりとりたい。
		5 (教科担当として) 学力や時期に応じて質的・量的に適切な課題を出して、日々の学習や計画的学習を促しているか。	B	B	・課題で出したことが興味関心につながったと思われる事象が見られた。 ・考査前に計画表を書かせた。	・実態に合った課題の選定。 ・家庭学習の時間をつくらせることができなかった。
	6 生徒が自主的に取り組んだり探求したりする力をつけるための課題や学びの機会を、工夫して提供しているか。	C	B	・わかって解けるようになるとやる気も出て自分から進んで学習するので、問題を精選した。／・落ちこぼれる生徒はない。／・生徒の疑問から授業展開するなど工夫した。	・成功事例を教員間で情報共有できることが望ましい。 ・個々への声がけを欠かさないこと。	
進 路	希望進路の実現	7 学級担任・教科担当として6年間を見通した指導をしているか。学年会・教科会がそのために機能しているか。	B	B	・入試制度が変わるといことで学年会等で話し合いが行われている。 ・手探りながら高3までのことを考えて指導している。	・自分の考えを文字にすること。またその添削指導をすること。 ・高校との連絡をよの密にする必要がある。
指 導	新しい時代を展望できる進路指導	8 社会への視野を広げ、自分の人生の目標を考える機会としてのキャリア教育を、計画し、実施しているか。	B	B	・自分発見学習、職業体験を通して人生の目標を考える機会となった。 ・授業内でグループワークを取り入れた。／・クエストを通して仕事について考えさせた。	・配布物やクラスの掲示などで大学や職業の情報を提供する機会を増やしたい。／・様々な人の話を聞く機会を持つ。
生 活	自律的生活の育成	9 服装・挨拶など生徒の自律的取り組みを促しているか。モラルや思いやりにつながる、心の指導をしているか。	B	B	・特に中学段階で身に付けてほしいことであるので、普段から注意している。 ・見て見ぬふりをせずにできるだけ声をかけたり、問題提議を生徒にして考えさせた。	・モラルや思いやりにつながる心の指導は引き続きすべての教育現場で行っていく必要がある。／・自律的な取り組みの難しさ。
		10 担任・学年・部活顧問・館職員・生徒指導係等が連携を取りながら、適切に生徒相談に当たっているか。	B	B	・職員会・学校運営会議・生徒指導部会などを通して関係職員間の連携はうまくとれている。／・館へもなるべく顔を出して生徒の様子を聞き、また伝えようとしている。	・学校で起きた事案、学年で対応した事案で館職員が情報共有できないことがあった。／・心の成長、もう少し大人になるような声がけをしたい。
	11 現在の「いじめ」の定義(注)に基づいていじめを認知し、職員間で情報を共有して適切に対応しているか。	B	A	・2学期は2回ほど特別に「いじめ」について授業を行った。 ・館で孤立しはじめた生徒の理由を探り、周囲の友人の情報を得て担任に連絡した。	・生徒の言動に注意して未然に防げるようにする。 ・日常的な衝突といじめの区別について考えていきたい。	
指 導	安心・安全を守る指導、安全を考えさせる指導	12 校内の安全点検や日常の目配りを重視し、事故や危険を防止できているか。	B	B	・日常の目配りはよくできている。そのため事故や危険は防止できている。 ・見回り点検は真面目にしている。	・危険防止の意識を持って取り組んでいきたい。 ・常に校内の様子に気を配り、異常を見過ごさないようにする。
		13 校外での交通安全や防犯(インターネットによるトラブルの回避も含む)についての指導をしているか。	B	B	・インターネットによるトラブルについての全校集会が実施できてよかった。 ・HRでの声がけを行った。	・家庭での指導をどうしていくか。 ・ネット被害については実態をつかむことすら難しい。
開 か れ た 学 校	開かれた学校づくり	14 保護者や地域の方の意見・要望をくみとり、必要なことには、すばやく、的確に対応しているか。	B	B	・帰宅書により館生の保護者の声を聞くことができたほか、地区保護者会開催の成果も見られた。／・可能な限り電話・面談を通して対応した。	・対応に仕方については先輩の先生方を参考に改善していきたい。 ・保護者への対応、校内での連絡で配慮を欠くことがあった。
		15 電子媒体や紙媒体を通して、各種の情報を生徒・保護者や一般に向けて、定期的に提供しているか。	B	B	・各種通信類、HP・紙郵送等で情報提供を行った。 ・館の様子もできるだけHPに載せるようにした。	・定期的に発信する。／・館の様子ももっと発信したい。 ・通信類は余裕を持って発行したい。
		16 地域の方や校外の団体等と交流できる機会を、生徒に提供しているか。学校として交流に寄与しているか。	C	B	・祇園祭後の清掃活動は一定の成果を上げている。また、2・3年生で実施した職場体験も交流の機会となっている。／・部活動を通じて他団体と交流している。	・遠方の生徒が多い本校で「地域との交流」という意識を持たせるには工夫が必要。／・聖華祭時に取り組めるか考えたい。

(注) 一定の人的関係がある生徒の中で、一方が他方に心理的・物理的な影響を与える行為をして、対象となった生徒が心身の苦痛を感じていること。一時的なものや謝罪して解決したものも、「いじめであった」と考える。